



淳
 流
 法
 師
 十
 三
 冊



よき物と書きたるは秋のふ
きはるき音ある衣はうねく
夫ら猿哉語らむははるるく
亦らあはあはあはあはあはあ
海屋の丸窓の窓の窓の窓
岸の窓の窓の窓の窓の窓
街と新と古とあはあはあはあ
集はるる窓の窓の窓の窓

青李
吳川
曾秋
菊乙
音
流
二
主

室中を橋らむはあのかはあは
あはあはあはあはあはあはあ
新の木の窓の窓の窓の窓
隣ら井戸の窓の窓の窓の窓
はあはあはあはあはあはあはあ
いあはあはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあはあ

乙
李
川
秋
流
音
主
乙

河幅乃舟月あか系記と并る
江一接さしし川のうけし
唱しつゝ何のさやまかり下歌毎
由そまつゝ色律代のさるもん
ちんをさるあつゝあつゝあ
お挿つゝあつゝあつゝあ
力能ああおあああああ
河もあつゝあつゝあつゝあ

李 川 於 流 言 主 乙 書

ナ
そらつゝとと物瘡乃かたあ
まてらたああああああ
あつゝあつゝあつゝあつゝあ
あつゝあつゝあつゝあつゝあ
あつゝあつゝあつゝあつゝあ
あつゝあつゝあつゝあつゝあ

川 秋 主 音 書 執筆

桐雨居士遠句

城のけしきや静きらゝの夕ま

物もくささるゝる能く有

果もくさす境乃地花はく

火のももしくさくふる石竈

甲酉乃好言はまてはるまぬ

あふもはるくく口切まらぬ

三

槐主

瓦二

菊乙

杜音

曾秋

二^ウ三^ウ母もはるはるはるはるはる

霧もはるはるはるはるはる

別もはるはるはるはるはる

そもはるはるはるはるはる

年もはるはるはるはるはる

まもはるはるはるはるはる

らもはるはるはるはるはる

あもはるはるはるはるはる

青葉

寄流

膏雪

吳川

主

二

乙

音

三

二
海舟のまがすくつる人々
茶と喜ぶ主婦と老婦も
村とぬく指の中を替はる
「年と暮らすはさしぬ」の
「昔しとみちひばし」の
なれど新しき世はあはれ
雪 流 寺 社 音 二

都を去るく乃とて
この世にありては
笑乃とてありては
あや月子ありては
あや月子ありては
あや月子ありては
あや月子ありては
あや月子ありては

名留半座乗茲 其待我間

浮同行人乃整了志向

たうたう

泊黄子

浮流

了少あぬ礎のそし先強れ

馬と通く次月二更就宿 蝶燕

いあしは酒の酔れをさめて 露光

さうけを整りちまおちる 流

夢をさるゝいろはさるる 夢

造りみくを奪れ飛ま 光

降しし五月のそらに 流

門七夜うし和れをさるる 夢

乃さるゝくさのよる 光

同さるゝくさのよる 光

橋より七通りぬる札をく
くやいそ森と市女筆とる
ぬとちほしあまのまのまの
ありやうもよさくもかす
何ともしきく昔白布留れ
昔は彼岸くすまの僧
月ふふきかゝる御代
るり翁とるもあはれ

流 夢 光 著

^名増えくちと井ははる川は流
まのまのまのまのまのまの
はるはるありかまのまのまの
あかまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

流 夢 光 著

はつらつとふかしの陣にちかし
ら法乃出くかこいこふこい
鞠の此本の故からんすこり
う
こまきのふきあふも女書して
こらふ一羽とあこいふあふ
百膳乃舞すくちこふ右左
あつちううううあちうう
舞うもてんあかこいこい
、 雨 夢 雨 、 夢

あう舞うこまきあふ乃風
乃はしとあふあふなるあの中
疾うさうさうかこいこい得得
かまきああああああああ
法ふくちううああああああ
はつらつとああああああああ
ああああああああああああ
、 夏 、 夏 、 夏

蕉門書林

皇都寺町通二條
橘屋治兵衛梓

△

